

Colony Tokyo

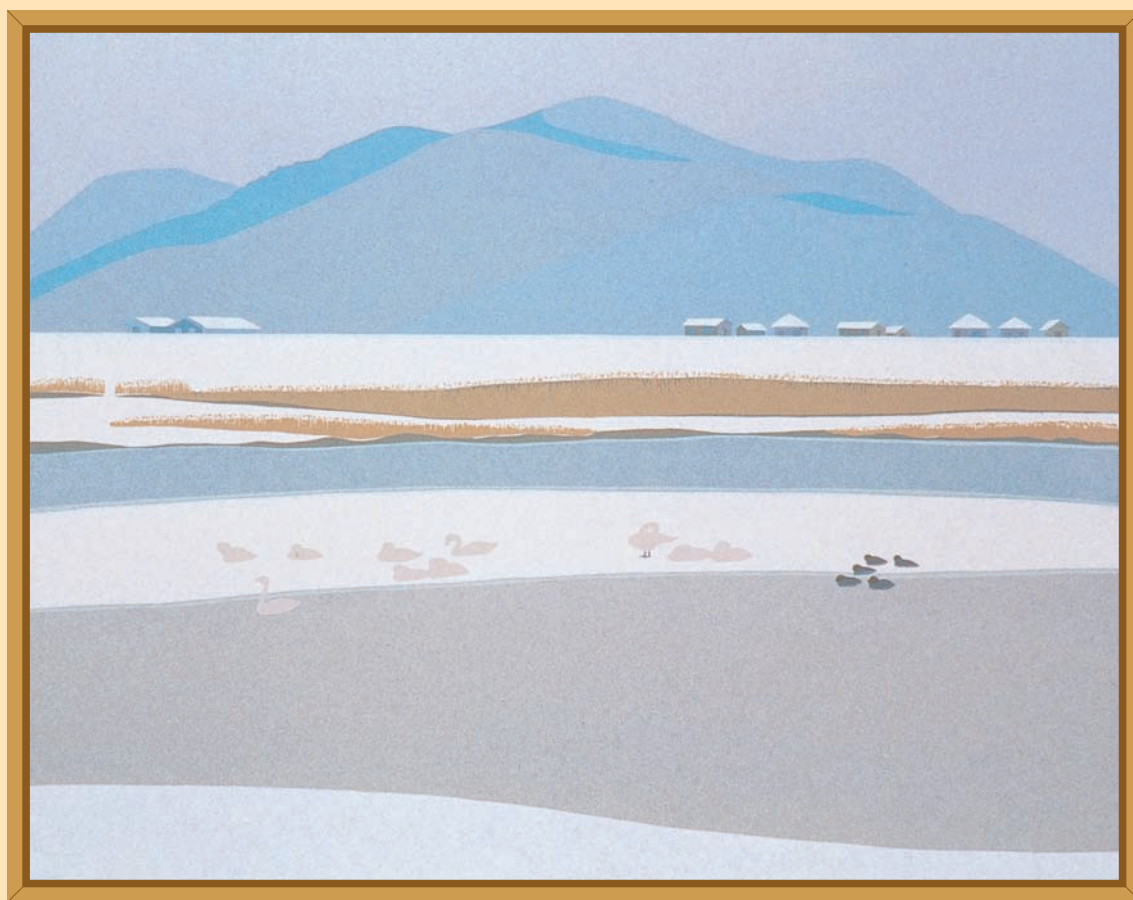
コロニーとうきょう

Vol.

152号

2012(平成24)年
1月1日発行

 社会福祉法人 東京コロニー
〒165-0023
東京都中野区江原町 2-6-7
TEL 03-3952-6166
FAX 03-3952-6664
<http://www.tocolo.or.jp/>
(法人本部 事務局)



アートビリティギャラリー 27 作者 飯塚 定子さん 『福島市阿武隈川』(詳しくは15頁をご覧ください。)

時評

2011年度 上半期事業報告書
とびっくす
法人の主な動きから

法人本部・コロニー中野・アートビリティ・トーコロ生活支援センター・IT事業本部・デジタルメディアセンター・トーコロ情報処理センター機能開発室(〒165-0023 中野区江原町2-6-7)・中野区仲町就労支援事業所(〒164-0011 中野区中央3-19-1)・トーコロ情報処理センター事業部(〒162-0051 新宿区西早稲田2-2-8)・葛飾福祉工場(〒125-0042 葛飾区金町2-8-20)・立石工場(〒124-0012 葛飾区立石8-50-1)・コロニー東村山(〒189-0001 東村山市秋津町2-22-9)・大田福祉工場(〒143-0015 大田区大森西2-22-26)・城南島工場(〒143-0002 大田区城南島4-3-9)・トーコロ青葉ワークセンター・トーコロ青葉第三ワークセンター(〒189-0002 東村山市青葉町2-39-10)・国分寺戸倉寮(〒185-0003 国分寺市戸倉1-21-9)・東久留米第一氷川台寮・東久留米第二氷川台寮(〒203-0004 東久留米市氷川台2-31-22)・東久留米第三氷川台寮(〒203-0002 東久留米市神宝町2-14-26)・えはらハイツⅠ、Ⅱ・中野江原短期入所(〒165-0023 中野区江原町3-23-2)

時 評

「新年の覚悟」

理事長 勝又 和夫

1. はじめに

新年明けましておめでとうござい
ます。本年も旧年同様変わらぬご支
援、ご理解の程よろしくお願い申し
上げます。

新しい年の始まりではありますが、
社会全体を覆う空気は、昨年の東日
本大震災やギリシャ発の金融危機や
世界大恐慌の不安の中で、例年には
ない重たい空気を感じます。景気の
気は気分の気とも言いますが、我が
国の歴史を遡って見た時、いろんな
苦難を乗り越えての結果として今日
の日本があることから、今の苦しみ
の事象は乗り越えられない困難では

ないと、一重にひとりひとりが前向
きに覚悟を持つことが活力を甦らせ
ることだと、この新しい年に当たっ
ての決意としています。厳しいが故
に、尚更私達には自律が求められて
いるのではないのでしょうか。

2. 昨年からの新年

昨年の国内の主な出来事は、東日
本大震災や原発事故、民主党政権と
して三人目となる総理大臣の誕生、
タイの大洪水、TPP問題等私達の
置かれている現況に、自らの意思を
問われる事柄が多数ありました。障
害者福祉に於いても障害者基本法の
改正や総合福祉法制定に向けた骨格
提言の発表が為される等、新たなス
テージに向けた動きが見られるもの
になっています。

経済や財政は厳しいままですが、
私達は社会全体や属する分野の動向
を見極めることは当たり前として、
それらに一喜一憂することなく、そ
れ等にも増して大切なのは自らの得
手・不得手を自覚し、その時々の到
達点を定め、一生懸命に努力するこ
とではないでしょうか。それこそが
新年の抱負でもあります。

3. 当法人の運営

昨年の10月に当法人は60周年とい

うひとつの節目を越えました。日常
の活動を通じて感謝の意は表させて
いただき、特にお世話になった一個
人と七団体・組織には年末に心ばか
りの感謝の意を表する場を設けさせ
ていただきました。本来的には周年
記念事業を催し、お世話になっ
てより多くの皆様に感謝の意を表す
べきでしたが、東日本大震災で塗炭
の苦しみにいらっしやる方々のこと
を考えると、とても踏み切ることが
出来ませんでした。

この紙面を通じて多くの皆様には
心から感謝を申し上げさせていた
きます。

本年度上半期の事業報告は別稿に
ありますが、社会的な厳しさの中
ではありますがお陰様で、障害のある
方の一般就職支援や工賃等支払い、
経営結果では計画を上回るものと
なっています。

年度に於いてもこの見込みで推移
するものと評価していますが、むし
ろ年明けの今は、来年度に向けた福
祉工場の民間化や社会福祉法人の新
会計基準への予算・経理処理を含め
た完全移行等に、待った無しの思
いで着手しています。

私達は社会の変化に対して、進取
の気概を持って挑戦すべきと考えて
おり、このことが当法人の理念や文

化の源泉であると信じています。

4. 理念の継承

当法人の運営理念等については、
前号の60周年記念号で執拗な迄に書
かせていただきましたが、障害のある
人の人権の守り手(些)として、「当
事者主体」「民間性」「企業性」を手
法に、働き・暮らす権利の追及に拘っ
て行くこととしています。61年目の
年明けに当たってもこの思いは法人
に所属する全ての人のものであり、
この思いをより確かなものとして引
き継いで欲しいと願っています。確
かな理念の元に強靱な組織が確立す
ると信じています。

時代の要請に応えて、所在する地
域にとつて無くてはならない存在と
して役割を果たす覚悟を新たにしてい
ますが、それに加えて、そのため
にも運営する事業に於いて障害のある
人の働き・暮らすことの質の向上
に尚一層努力するつもりでいます。

「組織があるから自分が居られる」
ではなく、「自分が居るから組織が
機能する」といった気概を、所属す
る全ての人は是非とも持つて欲しい
と願い、新年の言葉とさせていただきます。
本年もよろしくお願いいた
します。

2011年度上半期事業報告書

1. はじめに

2006年4月に施行された「障害者自立支援法」は、2009年の政権交代による新政権発足とともに、時の厚生労働大臣により廃止が明言され、現在は総合福祉法（仮称）に向けた骨格提言が障がい者制度改革推進会議・総合福祉部会から示され、次期通常国会で法案審議が行われる見込みとなっています。新法の施行は2013年8月が目処とされていますが、当事者・関係者団体の声をどこまで受け止めた法案になるのか、今後とも注視しなければなりません。

一方、ギリシャ発のユーロ圏の信用不安や円高、東日本大震災等による日本経済への影響は極めて厳しい状況にあり、産業の空洞化や消費の手控え、雇用情勢の沈滞ムード等も顕著になっていると言えます。

こうした中、本年度の法人運営においては一層の努力が求められていましたが、事業や事業所よっての経営結果では、その影響による濃淡が出ている状況にあります。また、昨今の公的機関や社会福祉法人等への厳しい視線もあり、事業の順調な推移を確保するためには、従業員一人ひとりの問題意識と行動が尚一層求められる状況にあると言えます。

2. 上半期事業結果と年度方針の状況

上半期での事業結果では、表1に示す通り、総人数660名（内障害者、年度当初比10名増の396名、障害者比率60％）で在籍ではない契約者・登録者（表2）375名を加えると1000名を超える人達に責任を負う組織となっており、特に働く支援では上半期での一般就職者が32名（障害福祉サービスでは11名、

定員比19・6％）、経営結果（表3）は法人トータルでの上半期末の貸借対照表に示す通り事業活動の活発化により計画を上回るもので、決算でも同様な結果が見込まれるものとなっています。

本年度方針では6点を重点課題とし、これらの達成により真に障害のある人の立場に立った経営に全力を挙げるとしていましたが、その結果を中間で点検してみると計画を上回る内容で推移していると評価しています。その6点の個別状況は、

(1)「社会の厳しさの中にあっても売上高の確保に努める等」では、法人全体の中で好調な業種を法人の取り組み可能な事業所にも展開し、経営の厳しい業種については、抜本的な改善策に着手することを新たな課題として取り組みを始めていること。

(2)「定員の見直しにより受け入れ増を図り、生活介護事業を検討する等」は、定員に関する本年度計画は年度当初から達成しており、むしろ次年度に向けた取り組みを開始し、生活介護事業については個別面談の結果、希望者が事業の最低基準に達しなかったことなどから当面は現行制度の中でケアすることとしたこと。

(3)「旧体系施設の新体系への移行の確定とスムーズな移行準備を終える等」は、計画を超えるスピード感で着手中であること。

(4)「事業拠点のある地元自治体の要請に応える等」では、来年度からの60名定員のB型事業所の受託に向けての準備に入っており、職種・人員配置・諸規程整備等も年内には終える見込みであること。

(5)「経営基盤の更なる強化等」では、

利用者・従業員の約2年分の人件費相当額の剰余金を確保すること
に目処を着けたこと。

(6)「人材の育成に努める等」では、管理体制の強化とともに、若手の抜擢を来年度に向けて検討中であること。

当年度末では、計画を上回る結果となると見込んでいます。

3. 個別経営状況

法人本部及び各事業本部、各事業所の経営結果の状況では、印刷及び関連事業に厳しさが顕著なものの、具体的には以下のような状況にあります。

(1) 法人本部 「事務局体制の強化を図る等」については、経営幹部の複数事業所の責任者兼務等により、手薄な状況の中でむしろ来年度に向けて法人管理体制や事業本部制、事業所長を含めた法人単位の経営に向けた更なる改善策を年内には決定することとし、このことを補完・実質化するための法人全体を横断するネットワークシステムを本年度から来年度に渡って

構築して行くこととしました。経営数値では2015（平成27）年度までに移行が義務付けられたネットワークシステムの基幹となる社会福祉法人の新会計基準への移行を来年度予算からとして取り組むことで目処を付けた状態であり、これらの費用も見込んで計画を上回る経営結果が出せると見込んでいます。

(2) 福祉事業本部 「各事業に責任者を配置し、責任を持った運営が出来るようにする等」については、全ての事業単位に一定の役職付与による責任者の配置を終え、管理体制では弱さが残されているものの、グループホーム等入居者27名、居宅介護等契約者50名、短期入所等の利用契約者60名と拡大した事業の安定的な運営体制が整いつつあります。経営的には建て替え・修繕積立金など一定の資金確保が図れるものとなっています。

(3) IT事業本部 「次世代の育成と各事業で赤字を出さないこと等」については、来年度に向けて新たに所長を二事業において抜擢する

予定であり、管理層でも複数の抜擢人事を予定しており、先端事業としてそれに見合った人事を行うものとなっています。経営的には、法人全体のパイオニア的役割やネットワーク環境の保守や各事業所に対する先端技術での貢献が果たせる経営状況になりつつあります。

(4) 社会就労事業本部 「定員規模の見直しを図り、生活介護事業を検討する等」については、生活介護事業を除いては何れも計画に添った事業遂行状況であります。経営的には基幹事業での落ち込みが大きく、これへの抜本的な対策が急務となっています。

・コロニー中野 この年度より多業種の組み合わせにより、経営改善の見通しが立ちつつありますが、本格的には葛飾福祉工場のノウハウを得ての葛飾工場とは棲み分けた販売戦略による物品販売業へのシフトであり、年内には本格化させることにしています。事業が軌道に乗る場合は、工場の老朽化・耐震化対策としての建て替え等の

検討と、累積赤字の解消策の検討が課題であるとしています。

・中野区仲町就労支援事業所 精神障害者施設として指定管理・新体系の事業としては初年度であり、結果的には業種的な拡大や出勤率の向上など順調な事業運営となっており、経営的には予算に添ったものとなっています。

・コロニー東村山 基幹事業である印刷事業の落ち込みが顕著であり、法人の印刷及び関連事業所（東村山、葛飾・立石工場、大田工場）が連携して抜本的な対策を検討することになっていることについて、一日も早い協議の場の再開が必要な状況にあり、規模の縮小も視野に大胆な提言が待たれる状況であります。経営的には補完事業として、無償貸与を受けている隣地の農地や屋上・屋内を活用した菜園事業の可能性も検討しなければならぬ課題となっています。

・トーコロ青葉（含む第三）ワークセンター 基幹事業であるメール作業の落ち込みが大きいことに対し、営業体制や体質・戦略の抜本

的な見直しを図るとともに、一昨年から始めた葛飾福祉工場のノウハウを吸収しての物品販売作業について、本格的な取り組みとするためのそれに見合った体制構築を図る対応が急がれる状況にあります。経営的には黒字化しているものの、来年度からの新会計基準での減損（時価）会計により、土地価格の減損（時価）額1億5千万円前後が固定資産評価損として来年度の当初に発生することから、営業活動による対策は不可避な状況にあります。

(5) 福祉工場事業本部 「民間化の受け皿として準備を終える等」については、新体系事業での公費収入の大幅な減額対応や、その収入もこれまでの箱払いから利用者個人への支払いに変わることでの、利用者個人が福祉工場が提供するサービスについて納得し、契約し、その場合にその本人が受領した額を対価として工場に払うものになること（原則はこの形ですが、二重手間等になることから、工場が本人の代理として請求し、受領し

た場合は本人に請求根拠と受領額を書面により通知する「代理受領制度」であり、このことを差別感なくシステムの変更として納得して貰うことが何よりも大切になることについて理解を得る努力を行うつつあります。このことを先ず取り組む課題とした上での公費収入の減額対応となるものです。（なお、A型契約者からの自己負担金は徴収せず、制度上徴収せざるを得ない移行・B型契約者からは制度に沿ったものとするとしています）。なお、工場の建て替えに関する東京都による特別補助期限（2017（平成29）年度末、補助率8分の7）については、建て替えの場合の自己資金は基本財産として寝てしまうことから充分な検討（自己資金の調達と返済計画等）や建築上の制約と対策・城南島問題等との絡みを前提とすることとしており、新職種の導入についてもシビアなコスト計算が重要であるとしていくところであり

ます。
・葛飾福祉工場 経営的には大きな

累積剰余金ですが、その半分程度は運転資金として事業運営に日常的に必要なことから、事業活動による収入が全く途絶えた場合は3年弱程度の資金量でしかなく、工場の経営課題としては赤字（製袋・縫製等）部門の早急の経営の改善と効率化に着手しなければならぬ状況にあり、縫製については下半期早々に改善策を実施に移すこととしています。製袋については事業所の枠を超えた検討を行うこととしています。

・大田福祉工場 大森工場の建築制限や城南島工場の有期限借用問題で、大田工場にとっては葛飾工場の比ではない多岐に渡る課題を抱えています。加えて、多額の欠損金と印刷事業の経営的な厳しさや、B型・移行事業のための月額100万円以上の加工高が得られる新規事業等を考えた場合、早急な対策が待った無しで待っている状況にあると認識しています。また、累積欠損金に事業規模から見た場合1億円程度を加えた運転資金の必要性が潜在している状況に

あり、この資金調達も早急に答えを出さなければならぬものとなっています。

4. その他の状況

法人全体として以上の事業状況の他、「障害者自立支援法の評価できる面での法が求める水準や範囲を超えての実績を残す」ことを目標に事業遂行を図っており、その他では「苦情解決第三者委員会制度」、「第三者評価の受審」等により利用者支援の質的向上や真に障害のある人の立場に立てる組織体として、本年が法人創立60周年の年にあたるだけに、内部に向けて原点の重みを周知する取り組みを行いつつあります。また、広く福祉に関わる意図を持って、国、東京都、事業拠点がある地元区市はもとより、日本障害フォーラム、日本障害者協議会、ゼンコロ、全国・東京都社会福祉協議会などにおける当法人としての役割を引き続き果たしており、特にこの間では東日本大震災に対して義援金・物資の提供や現地障害者支援のための人的支援にも積極的に取り組んでいます。

表1 在籍者の推移

自2011年4月1日 至2011年9月30日

(単位：人)

	前年度末 在籍者数	期中増減				主な減員理由			上半期末 在籍者数
		増員		減員		自己都合	一般就労	疾病、その他	
雇用就労者	106	3	(0)	5	(0)	4	0	1	104
	(14)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(14)
事業・施設の利用者	239	43	(0)	32	(0)	11	11	10	250
その他	41	1	(0)	0	(0)	0	0	0	42
障害がある就労者等 (計)	386	47	(0)	37	(0)	15	11	11	396
	(14)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(14)
障害がない就労者	264	11	(1)	11	(1)	10	0	0	264
合 計	650	58	(1)	48	(1)	25	11	11	660
	(14)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(14)

- (注) 1) A型利用者については、障害がある雇用就労者に含めた上で下段の()で再掲しています。
2) 年度末在籍者数には非常勤嘱託医を含んでいます。
3) 年度末在籍者数にはグループホーム・ケアホーム利用者を含んでいます。
4) 増員および減員の各右欄には法人内異動を()で表記しています。

表2 参考資料：「在籍者の推移」に含まれない人員状況

上半期末及び上半期中人数

(単位：人)

	登録・契約障害者	一般就職者	トライアル雇用者等	一般就職サポート者
福祉事業本部	72	—	—	—
I T 事業本部	24	*1 4	—	—
社会就労事業本部	—	*2 1	—	—
東村山市就労支援室	134	16	—	—
アートビリティ	145	—	—	—
計	375	21	—	*3 142

- *1 IT事業本部、職能開発室 在宅教育修了者からの一般雇用1人、職業紹介事業からの一般雇用3人
*2 社会就労事業本部、コロニー中野しごと財団修了者で一般雇用1人、A型雇用0人
*3 事業本部、事業所を超えて全体でサポート(当法人からの2007.4～2011.9までの就職者)

表3 上半期末貸借対照表(簡易版)

2011(平成23年)9月30日現在

(単位：円)

	前年度決算	本年度中間決算	増減		前年度決算	本年度中間決算	増減
現金預金	2,738,699,550	2,739,802,201	1,102,651	買掛債務	789,045,182	993,665,265	204,620,083
売掛債権	1,195,161,180	1,835,215,704	640,054,524	借入金	946,522,000	1,030,801,000	84,279,000
その他	3,196,914,985	3,402,065,472	205,150,487	その他	1,282,627,661	1,373,973,922	91,346,261
				純資産	4,112,580,872 * (66.5%)	4,578,643,190 * (59.8%)	466,062,318
合計	7,130,775,715	7,977,083,377	846,307,662	合計	7,130,775,715	7,977,083,377	846,307,662

*純資産に占める現金預金の比率

トピックス

コロニー中野

コロニー中野第16回 コロニー祭り報告

去る10月15日コロニー中野第16回コロニー祭りを開催いたしました。当日は朝から激しい雨と風に見舞われましたが、午後には雨が上がり日が照るといった変わりやすい天気でした。祭りの企画に関しては5月より、実行委員会を十数回開催し、何か新しいアイデアはないかと議論を重ねてきましたが、今回初めて日大芸術学部マジック研究会よりご参加の了解が得られ、彼らの紹介により落語研究会にもご参加いただきました。ほかに毎年恒例のブラウンコースト・佐藤潤・小平ジャグリングクラブ、利用者さん親子のダンスなどご協力いただき、演目も盛りだくさんでしたし、音響の和山さんにも大変お世話になりました。また、東京都セルフセンターより東日本大地震で被災した施設製品の販売打診がありコロニー中野としても積極的に取り組むことにしました。商品を生入れるにあたり、施設職員と直接電話でお話する機会があり、普段製品を販売している地域が壊滅しており大変な状況であることを伺いま



した。そういった状況を踏まえ商品の仕入れは小額でもなるべく多くの施設から仕入れる方向で行いました。食堂のスタッフ、法人事務局長の全面協力のもと被災施設製品の味噌を使った「いもっこ汁」も販売でき、お客様にも大変評判が良く13時には完売してしまいました。

今年のお祭りは悪天候スタートにもかかわらず例年ペースで実行できたのは屋内の業務スペースを活用したり、天候の変更に応じて販売品を移動したりとみんなの機転で対応できたことが大きかったと思います。反省すべき点も有りましたが、まずまず成功でした。最後にご参加いただいた「あとりえふあんとむ」仲町

就労支援センター」生活支援センター」の皆様ありがとうございました。来年もどうかよろしくおねがいします。

コロニー中野第16回

コロニー祭り実行委員長

六川 洋

仲町就労支援事業所

お祭りやバザーへの 参加と自主製品

仲町就労支援事業所では8月から11月の間に5回地域のバザーやお祭りに参加しています。バザーでは布製品、キャンドル、Tシャツなど自主製品を主に販売します。今年は事業所が移ったこともあり、初めて出店したバザーもあったので、どんな客層なのか、どのような商品が売れるのか模索しながら担当従業員と4名ほどのメンバーで話し合っただけで進めていきました。

私は宝仙祭という事業所の近くにある学校のバザーに参加しました。例年参加しているバザーで、子ども向けの商品がよく売れています。そのことを踏まえて、今年は宝仙祭担当の人たちと新商品を考えることになりました。ハロウィンの季節

だったので定番商品チビモミの形でジャック・オ・ランタンをモチーフにしたキャンドルを作成しました。また、女の子をターゲットにしたリボン形の髪止めと、毛糸で作るシュシュを売ることにしました。当日はあいにくの雨でしたが、元気で寒さを吹き飛ばす勢いの子ども達が私たちのブースに来てくれて、試作品を完売することができました。中には友達とおそろいのシュシュを買ってほくほくした笑顔の子もいて、こちらも同じくらいほくほくした気持ちに包まれました。宝仙祭後、リボン型の髪止めとシュシュは自主製品の一つになりました。

11月に入って急きょ岩手県で開催される全国ナイスハートバザールに出店することになり、自主製品を送りました。ナイスハートバザールは11月10日から14日まで開催されていて、私は被災地を自分の目で見たいと思っていたのでこの機会に岩手県に行くことにしました。ナイスハートバザールは盛岡のイオンで開催されており、賑わっていました。翌日、釜石や陸前高田に降り立って改めて被災の傷跡を目の当たりにしました。地割れた道路や倒れた電柱、コンクリートがむき出しになった家々などさまじい光景からは、3月11日までここで人々が生活していたとは

信じられない程でした。東京も3月11日はひどい地震だったが、今では落ち着いて日常を過ごしています。当たり前前に生活していた自分の甘さと、想像を超えていた光景がショックでした。

日本が丸となって助け合いをしている中、バザーという形で関われたことはとても大きな意味があると思います。また、自分たちが作ったものでほくほくした笑顔をつくることは、自主製品の醍醐味だと思います。

中野区仲町就労支援事業所
勢登 春香



コロニー東村山

大自然の中で開催された今年の ティーパー大会!!

十一月二十六日、日本ティーパー協会が主催する第13回関東健康福祉ティーパーオープン大会が行われました。今年は早稲田大学所沢キャンパス内にある野球場での開催となりました。この会場は早稲田大学ソフトボール部の練習グラウンドでもあり、2012年度プロ野球ドラフト会議でファイターズから指名された大嶋匠さんの練習場所でもあります。もしかしたら会えるかも・・・（それはかないませんでした）。

当日は快晴で、狭山丘陵にある早稲田のグラウンド周辺はちょうど紅葉も見ごろで絶好のスポーツ日和でした。全部で12チームがエントリーし、3チームごとに予選リーグを行い、上位1チームが午後からの準決勝、決勝に進む方式でした。我がチームコロニーは「絶対優勝するぞー!」を合言葉に大会に臨みましたが・・・。

みんなで芝生の上でお弁当を広げてたいらげたあと、早々にグラウンドを後にしました。

試合後の合言葉は「来年は絶対一勝するぞー!」に変わりましたが、



「ホームランを打ったSさん。カッコいい!」

ファインプレーあり、ランニングホームランあり、はたまた打ったと思ったら二塁ベースに向かって走る人あり、名誉の負傷ありとみやげ話も沢山できて、とても楽しい一日となりました。みなさんも次回のティーパー大会には是非ご参加下さい。

コロニー東村山 部長 星 忍

青葉ワークセンター

群馬サファリパーク日帰り旅行

11月11日（金）に総勢108名、バス3台で、群馬サファリパークへ日帰り旅行に行ってきました。いつもより1時間も早い8時集合でしたが、皆さん遅れることなく、予定通



りの8時半に出発することが出来ました。

群馬サファリパークまでは、休憩を挟んで約2時間半の道のり。このバス移動の時間を使って行われるのが、毎年皆さんが楽しみにしているカラオケです。懐かしい曲から最新の曲まで、次から次へと歌いたい曲のリクエストが出てきて、聴いている方もとても楽しい気持ちになりました。3号車はカラオケを始めて早々機材が壊れてしまうというハプニングがあったものの、バス会社の社長さんがサファリパークまで機材を届

けてくれて、帰りは最新機材でのカラオケを堪能できたようです。

11時過ぎに目的地の群馬サファリパークに到着し、バスに取り付けたガイドレシーバーの案内を聞きながら、いざサファリパーク内へ。サルとクマが同じエリアで仲良く暮らしている姿に驚いたり、顔や体の傷まではっきり見えるほどの距離にいるライオンやトラに興奮したり、バスが迫っても全く動じずに道を占拠するシカたちに笑ったり、雨のためウォーキングサファリゾーンに立ち寄れなかったことは残念でしたが、サファリパークならではの体験に大満足でした。

昼食はサファリパーク内の食堂で、デラックス和定食弁当をいただきました。熱々の鉄板焼と色々な種類のおかずが入ったお弁当で、お腹がいっぱいになりました。サファリパークらしいトラの絵がプリントされたコロッケがとてかわいかったです。

食事の後はお土産を買いに売店へ。様々な種類のお土産があつて迷ってしまい、時間が足りない！という人もいたかもしれませんが、14時に群馬サファリパークを出発。16時半過ぎに全生園に到着、解散となりました。

お天気に恵まれればもっと楽しかったと思いますが、有意義な秋の

一日を過ごすことができました。

青葉ワークセンター 原田 未央

職能開発室

在宅就労グループ

「es-team」メンバーによる
ブログを開始しました！

職能開発室の在宅就労グループ「es-team（エス・チーム）」の登録メンバーは現在14名です。その就労形態は、雇用でも施設利用でもなく、いわゆる請負契約ということになります。仕事を委託している間のみにて成立する関係であり、その仕事についても、スケジュールや就労場所などは本人裁量にゆだねるのが原則で、労務管理や支援計画も不要な世界、という特徴があります。

しかしこれらは極論であり、むしろそういう前提にあるからこそ、仕事を通じてお互いの顔が見える関係性が重要です。たとえば「無理なスケジュールを組んでいないか」「技術面で困ったときは？」「○○さんをフォローして！」といったような互助の仕組み。衛生上の留意点や安心して働けるための契約などの独断ルール等々。こうしたさまざまな工夫のうえに、グループワークによる

仕事 が成立しています。

このような中、es-teamのWebサイト内において、ブログ「ワーカーの素顔」がこの度開設され、持ち回りによるメンバーの記事が週に一度掲載されるようになりました。その内容は、仕事に限らず、日々のことや自分を支える道具や環境など、思うままのことが自由なスタイルで綴られています。

もともと、es-teamのサイトは、業務内容や成果物のPRを主として開設された経緯があり、仕事のプロセスやそこで働く人たちのことには意図的にあまり触れてきませんでした。しかし、一人ひとりが違う働き方、考え方を持ち、そして障害や疾病等による就労の制約がありながらも、それぞれが身の丈にあわせてながら仕事を成し遂げていく様子を、多



es-team ブログ「ワーカーの素顔」
<http://www.es-team.net/blog/>

くのお客さまや関係者のみなさまにお見せしたいと思うようになりまし
た。等身大の彼らをご理解いただき、
あわせてe-teamの今後にご期待く
ださい！

IT事業本部 職能開発室
吉田 岳史

葛飾福祉工場

「危機管理産業展2011」への出展、6万3千人が来場

年が改まり、2012年への希望を胸に幸多い年であることを祈っております。しかし、時の経つのは早く、あの忌まわしい東日本大震災から10カ月が経とうとしています。葛飾福祉工場防災営業部では、長年防災・避難用品を取り扱い、今回の震災ではそれらの被災地への発送、私を含め現地への被災者支援による派遣、そして今現在も全国各地の自治体、民間企業、各種団体、代理店様からのお問い合わせやご注文に連日総力体制で臨んでおります。この状況下で、「危機管理産業展2011」(主催・株式会社東京ビッグサイト、特別協力・東京都、後援・内閣府防災担当、警察庁、消防庁等)は10月19日より21日までの3日間、東京ビッ

グサイトで開催されました。葛飾福祉工場としては2008年の出展以来3年ぶりの出展となりました。防災・避難用品を専門的に扱う事業者としては先駆的存在を自負する当工場として、未曾有の大震災によって今までにないほど防災関連への注目が高まっている中での出展は、大きな意義があることでした。

展示会の公式ホームページによりますと、今年の入場者数は延べ63,274人と昨年度の45,030人に比べてもかなり多くの方にご来場いただきました。防災意識の高まりが反映されたといえます。当工場では展示できる最大小間の12小間(108㎡)を使い、会場内でも最大級のブースで5年保存水の試飲や、防災用備蓄食料であるアルファ米、ビスコ保存缶、ビスケット、パンの缶詰、3年保存カロリメイト等の試食コーナーも設けて、多くの来場者呼び込むことに成功し、大盛況のうちに3日間を終えることができました。展示中には多くのメディアにも興味をもっていただき、テレビ、雑誌取材を何度も受けました。また、たくさんの方の行政・民間・各種団体関係者、さらに政治家の方々

も当工場のブースを訪れ、営業マンの説明を熱心に聞いていかれました。他の出展業者のブースに比べ、当工場は防災・避難用品を意識して、総合的な観点から展示いたしました。水・食料から避難道具、家具転倒防止器具、保護用具に救出用具、救急セットや非常持出袋のセット、帰宅困難者対策用のセット等、あらゆる状況を想定したグッズを、それぞれの状況下での災害への備えとして、ブース内にいくつかのコーナーを仕切って展示しました。この全方位的な展示により、「葛飾福祉工場さんのブースを見れば、他のブースを見な



多くの来場者でにぎわった葛飾福祉工場のブース。
営業マンには様々な質問が投げかけられ、関心の高さが伺えました。

いまでもすべての状況に対応できる」と、多くの方に好評を博しました。

このような展示会で防災・避難用品を広く周知し、世間に向けて災害への備えを改めて伝え広め、警鐘を鳴らしていくのは当工場の使命であります。今後も震災の影響による慌しさは続くと思いますが、正面から向き合って頑張っていきたいと思ひます。

東京都葛飾福祉工場

防災営業部縫製営業課

藤村 悠一郎

大田福祉工場

コロニーフェスティバル開催

2011年11月5日、毎年恒例のコロニーフェスティバルを開催しました。

11月に入り、急に寒さが増し、雨の心配もありましたが、当日は天候にも恵まれ、たくさんの方々にご来場いただきました。

約1ヶ月前から準備をはじめ、企画、進行など大田福祉工場の従業員の手作りで行いました。

当工場各課がそれぞれ模擬店、バザー、子供コーナー、喫茶店など出店し、近隣地域の皆様との交流がも



てました。

そのほかに中央舞台では、八丈太鼓『まごめ会』『ルシエルシェ』、沖縄民謡『海やカラージズ』の演奏や、ビンゴでフェスティバルは盛り上がりしました。

今回は、先の東北の大震災があり、岩手県の障害者施設の物品販売や、葛飾福祉工場の協力で防災用品の販売をしたところ、大盛況でした。ご協力ありがとうございました。

2012年4月からの自立支援法体系での多機能型就労支援施設への移行に伴い、準備や利用者の募集もはじめており、近隣地域との関係も

いつそう深められたのではないかと思います。

皆様も次回2012年11月3日開催予定のフェスティバルにぜひ、ご参加ください。大田福祉工場従業員一同お待ちしております。

東京都大田福祉工場 桜井 芳明

福祉事業本部

「障害者グループホーム普及に向けてのガイドブック」について

福祉住宅研究会の取組み

「福祉住宅（障害者施設）等の安定供給に関する実務研究会（略称…福祉住宅研究会、主催…公益社団法人東京共同住宅協会）」は、2008年にスタートし、厚生労働省、東京都、運営する社会福祉法人やNPO法人等幅広いメンバーが参加して、障害のある人の住まいであるグループホームの普及に向けた取り組みをしてきました。東京コロニーからも本研究会に参加し、グループホームに関する情報を整理し、課題をピックアップし各々の立場から改善案を検討してきました。そして研究会の成果物として、昨年10月に「障害者グループホーム普及に向けての

ガイドブック」が完成し東京共同住宅協会より発行されました。

ガイドブックの内容

このガイドブックは、障害者グループホーム・ケアホームはどのような制度や補助で運営されているか、入居者である障害のある人達の現状、具体的な不動産の活用事例が写真や図面と共に掲載されています。物件をグループホームに活用することに興味をもった皆さんがガイドブックを見て具体的に検討することができ、内容になっています。昨年10月21日にはガイドブック完成記念セミナーが開催され、100名を超える皆さんや不動産関係の方の参加がありました。終了後の相談会でも、障害者グループホームへの活用を検討したいという方がありました。

中野区版「皆さん向けセミナー」を

実は、中野区自立支援協議会の地域生活支援部会でもこのガイドブックの完成を心待ちにしています。区内の皆さんを対象に、このガイドブックを使って障害のある方の住まいに

ついて理解を深めていただくためのセミナー開催を今年2月14日に予定しています。

どこに住むか選べるように…

障害者権利条約第19条で「障害者が、他の者と平等に、居住地を選択し、及びどこで誰と生活するかを選択する機会を有すること並びに特定の居住施設で生活する義務を負わないこと」とあります。障害のある人が誰とどこで住むかを選べるようになるためには、一人暮らしやグループホームなどに物件を提供してくれる理解ある皆さんが一人でも多くなることを望まれます。地域ごとに、このような呼びかけの機会を作っていくとよいと思います。

福祉事業本部長 加藤 留美子



ガイドブック表紙

法人の主な動きから

法人全体の動きとしては、60周年という節目の年を迎えるにあたり、昨年12月21日中野サンプラザにおいて、この10年当法人を支えていただいた一個人と七団体・組織への感謝状差し上げ、およびこの間顕著な功績があつた従業員に表彰を行いました。

事業を通しては、次年度民間委譲される予定の葛飾・大田両福祉工場における移行準備もいよいよ最終段階を迎えています。また、次年度からの指定管理事業として中野区中野福祉作業所の受託が2011（平成23）年12月16日付で正式決定いたしました。これにより新たに60名定員の就労継続支援B型事業が1拠点加わることになり、それに向けて従業員の再配置を行い、充実した支援が

図れるよう準備を進めているところです。一方これまでご報告してきました次年度より導入予定の社会福祉法人新会計基準への移行準備も順次進めており、すでに3回の研修を実施しました。それに合わせて法人内の通信インフラの整備を年度内に完了すべく進めています。前年度より一部で、今年度より法人全体で取り組み始めた物販事業も徐々に形になってきており、今後の展開に期待するところです。

アートビリティ事業におきましては昨年11月アートビリティ大賞授賞式を多くの皆様のご協力により無事終えることができました。多くの素晴らしい作品が今回もノミネートされました。

人事につきましては、これまで専

務理事・福祉工場事業本部長として役割を持っておりました君島久康が急遽退職する運びとなったため、福祉工場事業本部長および葛飾福祉工場の所長としてコロニー中野所長であつた中村敏彦に後任を任せる運びとなりました。また所長兼務となつていた大田福祉工場については、長年非常勤理事としてかかわつていただいていた木村理事にお願いすることとし、コロニー中野の後任所長としては長年中野でその力を発揮していた近藤章夫を抜擢、体制固めを行いました。次年度より指定管理受託予定の中野福祉作業所については、現在仲町就労支援事業所長の今西康二を選任し、仲町就労支援事業所長の後任には、秋谷（松本）直子がその任につくこととなります。IT事

所長級人事

2011年12月3日に開催された第六四回評議員会及び第二四一回理事会において、所長級の人事が承認されました。引き続き東京コロニーの事業に対するご理解と暖かいご支援をお願い申し上げます。

事業所長	中村 敏彦	（東京都葛飾福祉工場）	2011（平成23）年12月12日付
事業所長	近藤 章夫	（コロニー中野）	2011（平成23）年12月21日付
事業所長	木村 良二	（東京都大田福祉工場）	2012（平成24）年1月21日付
事業所長	秋谷 直子	（仲町就労支援事業所）	2012（平成24）年3月1日付
事業所長	柴田 実千代	（IT事業部 トーコロ情報処理センター事業部）	2012（平成24）年3月21日付
事業所長	坂田 利胤	（IT事業部 デジタルメディアセンター）	2012（平成24）年3月21日付
事業所長	今西 康二	（中野福祉作業所）	2012（平成24）年4月1日付

なお、本人事におきまして皆様大変お世話になりました君島 久康（専務理事、東京都葛飾福祉工場及び大田福祉工場 事業所長）が退任しましたことにつきまして、長年に亘るご支援を心より感謝申し上げます。

業本部におきましては、事業部長に柴田実千代を、デジタルメディアセンター所長に坂田利胤を選任し、新たな年度を迎えていく予定です。新たな体制で2012年も全員ひとつになって努力してまいりますので、どうぞ皆様の変わらぬご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

60周年記念感謝状贈呈式

昨年の10月に当法人は60周年の節目を迎え、それにあたりこの10年を通して大変お世話になり支えていただいている一個人と七団体・組織の皆様に感謝状を差し上げたく、併せてこの間に顕著な功績のあった従業員には、この場をお借りして表彰させていただく贈呈式を開催させていただきました。

本年は東日本大震災という未曾有の災害により大変な状況の中、私どもとしても、被災地支援を人的派遣や物的支援を含めて継続して取り組

んでいるところです。こうした中で、すので派手な催しは自粛させていただきました。

12月21日17時より中野サンプラザにて開催いたしました。皆様からは大変暖かいお言葉を多数賜り、これからも多くの皆様のご支援をいただきながら、皆様のご期待にお応えできるよう事業運営を進めていかなければならないことを実感しました。

重ね重ね御礼申し上げます。



第23回アートビリティ

大賞式典

2011年11月11日（金）日本財団1Fホールにて第23回アートビリティ大賞式典が開催されました。

本年度の受賞者は、アサヒビール奨励賞・相田大希さん、日立キャピタル特別賞・飯塚定子さん、アート

ビリティ大賞・大志田洋子さんでした。あいにくの天候にも関わらず、クライアント様をはじめ、たくさんのお客様にご参加いただき、おかげさまで笑顔に溢れた素敵な式典となりました。今後とも、このような式典を継続させていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



アートビリティ Artbility ギャラリー 27



『福島市阿武隈川』

飯塚 定子さん

1935 年生まれ。福島県在住。

本年度、アートビリティ大賞・日立キャピタル特別賞を受賞された飯塚定子さん。

淡い色彩を特徴としたシルクスクリーン版画で、地元、福島の四季おりおりの風景や旅先での風景を描く人気作家です。近年では、色鉛筆を用いた作品にも挑戦し、月に一度カラーペンシルアートの教室にも通われ、精力的に作家活動に取り組んでいるとのこと。

洗練されたデザインもさることながら、ご本人の明るい性格もとても魅力的です。

現在は、食の頂点と考える「米」の生まれる“田んぼシリーズ”を制作中。現在アートビリティ審査会にて、このシリーズが2点登録されたのを機に、7点の作品が登録されたら、大好きな「ごはん」への思いを込めたカレンダーを制作予定だそうです。

どのようなときもパワーにあふれる飯塚さんの活躍に今後も注目です!!

鎌倉美術家協会展日本画部入賞。

第8回アートビリティ大賞・アサヒビール奨励賞受賞。

第10回アートビリティ大賞受賞。

各地で開催された個展では、毎回大好評を博す。

2008年には、地元福島 of 自然を描いた作品とエッセイを綴った画文集、「わたしのふくしま」を発行。

■アートビリティ…1986 年障害者アートバンクとして設立。「才能に障害はない。アートの分野において、障害者の才能は健常者とかかわらない」を基本姿勢に活動を続けています。現在は、登録作家約 200 名、登録作品数約 3,200 点、年間使用作品数は 300 点を超えます。2002 年 4 月、アートビリティと改称。

ご寄附のお礼(2011年3月～12月 総額 10,600千円)

下記の皆様より、当法人に対してご寄附を賜りました。ご支援に対しまして心より感謝申し上げます。

2011年 3月 マルイグループユニオン 様

2011年 5月 武藤 富子 様

〃 永山コンピューターサービス株式会社 様

2011年 6月 三菱商事株式会社 様

2011年10月 沖電気工業株式会社 様

〃 全国本田労働組合連合会 様

2011年11月 東京共同住宅協会 様

2011年12月 翁 捷彦 様

〃 伊藤忠エネクス株式会社 様

〃 渡 秀二 様、恵美子 様

〃 諏訪 康雄 様

〃 アサヒビール株式会社 様

〃 日立キャピタル株式会社 様

東京コロニーの ホームページ



東京コロニー メインページ
<http://www.tocolo.or.jp/>



コロニー印刷
<http://www.colony.gr.jp/>



デジタル メディアセンター
<http://www.dmc-net.jp/>



アートビリティ
<http://www.artbility.com/index.html>



東京都大田福祉工場
<http://www.tocolo.or.jp/oota/>



トーコロ情報処理センター機能開発室
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/>



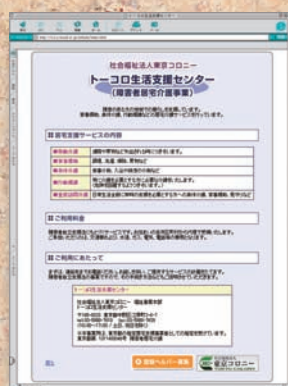
トーコロ青葉ワークセンター
<http://www.tocolo.or.jp/aoba/>



東京都葛飾福祉工場
<http://www.fireman21.net/>



トーコロ情報処理センター事業部
<http://www.tocolo.or.jp/joho/>



トーコロ生活支援センター
<http://www.tocolo.or.jp/seikatu/index.html>



グループホーム / ケアホーム
<http://www.tocolo.or.jp/grouphome/index.html>